

平成21年度リアルタイムFD報告

毎回の学習サポート終了後、サポーター(院生)から「学習支援報告書」がウェブ上で提出される。この報告書中の「支援内容」「特につまずいていた点」「学生の取組の様子や気がついたこと」を、サポートした科目の担当教員にメールで転送するシステム(リアルタイムFD)を2学期に構築した。学習支援報告書の内容をFDに反映させることが目的である。

(1) リアルタイムFD(学習支援報告書転送)実施状況

リアルタイムFDは一週間ごとに実施した。サポートが行われた各科目ごとに報告書を整理し、その科目の担当教員にメール送信した。実施状況は以下の通り。

【送信回】

- 1 11/17(火)－18(水) 25 科目
- 2 11/24(火) 10 科目(うち新規 5 科目)
- 3 12/1(火) 9 科目(うち新規 2 科目)
- 4 12/7(月) 17 科目(うち新規 5 科目)
- 5 12/15(火) 9 科目(うち新規 1 科目)
- 6 12/21(月) 11 科目(うち新規 2 科目)
- 7 1/14(木) 19 科目(うち新規 2 科目) 計 42 科目(異なり数)

【サポート対象科目】 42科目

基礎情報処理演習Ⅱ、機械工作法、計測制御、確率・統計、基礎情報処理演習Ⅰ、波動・振動、機械工学基礎実験、基礎情報処理演習、電気機器工学、電子回路、電力工学、制御工学基礎、電気工学基礎演習、電気磁気学及び演習Ⅰ、基礎化学熱力学、基礎物理化学演習、基礎有機化学、基礎有機化学演習、物質・材料工学基礎実験Ⅱ、化学2、応用力学Ⅱ、建設工学実験Ⅰ、連続体の力学の基礎、土質力学、数学2A、水理学Ⅰ、微生物学、生物機能工学基礎実験Ⅱ、生物学Ⅰ、経営情報シ

STEM工学基礎実験、数学2A、工業基礎数学Ⅱ、数学2B、物理学Ⅱ、数学演習Ⅱ、英語12A、英語科目全般(※TOEICの勉強法)、英語22A、英語22B、システム思考論、情報検索論、環境学概論

【リアルタイムFD対象教員】 50名

(2) 教員アンケート結果

2学期の学習サポート及びリアルタイムFD終了後、対象教員50名に以下のアンケートを実施した。

【アンケート内容】

問1 転送した学習支援報告書はFD等による教育力向上の参考になりますか？

1. 参考になる 2. 参考にならない

問2 どういう点が参考になりますか？ あるいは、どういう点で参考になりませんか？

問3 学習支援報告書の転送方法は、次のどれが望ましいですか？

(1) 転送頻度

1. サポーターから報告書が提出される都度

2. 一週間に一度程度(試行の頻度)

3. その他()

(2) 転送形式

1. 報告書を一つのテキストファイルに整理・追加する形(試行の形)

2. 報告書一通ずつの形

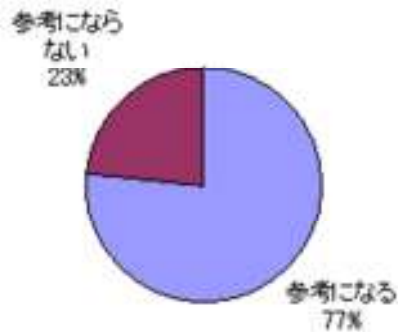
3. その他()

問4 リアルタイムFDへのご意見、ご感想などがあれば、お聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

【アンケート集計結果】 回答30名

問1 学習支援報告書はFD等による教育力向上の参考になるか



問2

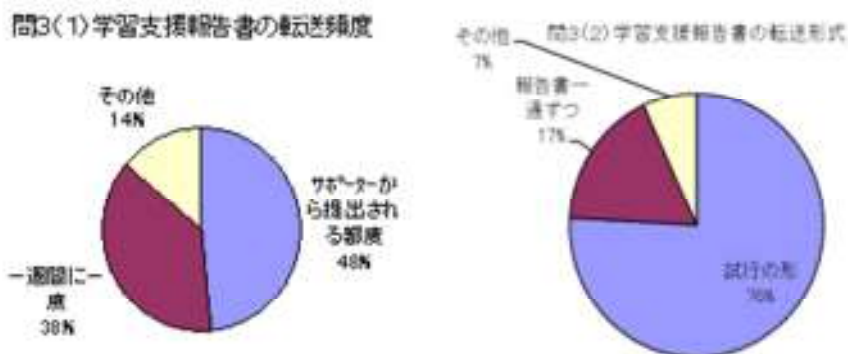
●参考になる点

- ・学生がどこでつまづいているのかを知る手がかりになる。
- ・リアルタイムで問題点がわかるため、すぐに対応できる。
- ・「授業中に繰り返し教えている基本的な部分をサポーターに聞いている」ということが分かりました。
- ・直接教員に聞きづらいような内容についても、どこで困っているかわかるときがあるので、授業改善に非常に参考になる。

●参考にならない点

- ・「試験対策の勉強をしていた」という程度の報告しかなかったため。
- ・もっと具体的な相談内容を書いてもらえば、何を間違ったのか、誤解していたのか、などの参考情報になると思われる。
- ・一部の学生なので、現時点では授業全体を見直すような情報ではない。

・支援する学生数、回数がもっと多いと、学習上問題になっている部分がある程度知ることができるのかもしれない。



●意見・感想

・情報提供をしていただいて授業の参考にできる点では大変結構なことで、同じような内容のサポートを受ける学生が出てくれば授業全体の改善を考えることになると思う。

・授業改善に役立つので、是非継続してほしい。

・どの程度の学生がサポートを受けているのか(特定の学生ばかりが来ているのか、ばらばらなのか)を何らかの形で教えていただけるとより参考になる。

・このように、教育業務の省力化、効率化に貢献するシステムは大変結構と思います。

・メールという形ではなく、例えばweb上で担当教員がいつでも確認できるようにして頂けるとリアルタイムに授業等に反映できるではないかと感じました。

(3) 次年度の改善点

以上の実施状況及びアンケート結果に基づき、来年度はおもに以下の点につき改善をはかる。

1) 個人情報の扱いとコンフィデンシャリティ(confidentiality・相談内容の秘匿)

①学習サポートの内容を、原則として学習相談に限定し、生活相談は教員や学生支援の窓口へ行くよう指導することをサポーターに徹底する。また、生活相談があった場合は「実施責任者への連絡」の項目で報告させる。

②サポーターの業務内容を明示するとともに、サポーター採用時に個人情報及び相談内容秘匿への同意を求める。

③支援学生には、サポート・相談内容が実施責任者・制度担当者に報告されること、及び科目の支援内容が科目担当教員に匿名で転送されることに、事前に同意してもらう。

④転送前の学習支援報告書の加工時に、サポーターと学生の個人名を単に消去するのではなく、それぞれに固有の番号を付与し、報告書を見る教員には、支援学生やサポーターが同じかどうかわかるようにする。

2) サポート方法と報告書の記載法についてサポーターを指導(教員の要望による)

①授業の課題(宿題)は、解答を教えるのではなく、解答を導くための考え方を教え、学生には自分で解答までたどり着かせる。

②学習支援報告書の「支援内容」「特につまずいていた点」「学生の取り組みの様子や気がついたこと」を具体的に記述させる。

3) 支援ウェブシステムの改善

①学習支援報告書の転送を一週間ごとまとめて行うのではなく、サポーターによるウェブ登録と同時に自動で行う機能を作成する。

②転送するだけでなく、支援システム上に加工済報告書を蓄積し、教員が担当科目の報告書をいつでも閲覧できるようにする。

③支援科目数と支援学生数の統計機能を作成する。

以上